

ヨハネによる福音書は御存知のように21章ありますが、最後の21章はかなり議論の対象となってきました。といたしますのはヨハネによる福音書の20章・21章と続けて読んでいただきますとおわかりのように、ヨハネによる福音書は20章で一区切りついており、21章は付け加えたような印象を持たれるからです。先週の福音書に選ばれておりましたのは、その20章の最後のところでありましたが、そこにはヨハネの福音書執筆の目的が記されておりました。

これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

しかし、聖書の中には無くてもいいものは一つもありません。この21章も私達に復活について、そして教会について教えております。

よく教会外の方々に復活について話をするとこんな答えが返ってきます。どうして死んだ人が生き返って来るか、生き返ったから永遠の命なのか、と、時にはその答えに困ったり、復活は信仰的に理解するのでキリストを信じていない人にはわからない…、と言っている人もいたようです。そもそも聖書の語っている復活とはどういうことだったのでしょうか。まず聖書の語っている復活は蘇生ではないということです。復活という言葉の原語の意味を調べてみますと、おきあがらせられる、ということです。即ち主イエス様は、死んだ者の中から起き上がった、神様によっておきあがらせられた、それを伝えているのです。主イエス様は死の中に留まっていたのではなかった。それで終わってしまったのではなかった。弟子達ももうそれっきりだったのではなかった。そう語っているのです。主イエス様はエルサレムで十字架にかかられました。復活なさった後弟子達にガリラヤに行くようにお命じになりました。ガリラヤは、主イエス様が3年間伝道なさった地であり、弟子達にとっては出身地でありました。弟子達はそれに従い、約170キロ離れた道のりを急ぎました。ガリラヤに帰ってきたペテロは漁師に戻り、漁に出たのでした。今日の場面はそういうところなのです。そこでペテロは主イエス様との出会いを果すことになるのですが、ここに描かれている主イエス様の姿は、私達の復活へのすべての疑いをすべて否定するものでありました。どれをとってみてもリアリティーに満ち、主イエス様の復活が、そして弟子達が再び起き上がらせられていったのは、確かな事

実であると言っています。しかもこれは初めてではなく、3度目であったのです。ヨハネはこの物語を通して、ハレルヤ主は本当によみがえられた、この言葉の真実を伝えているのです。

さて、主イエス様の教えによって沢山の魚が取れた記事に注意してみましょう。本当に不思議な奇跡物語ですが、よく見てみますと、不思議なことは他にもあります。まずさかなが153匹取れたと言うことですが、取れた魚を毎回何匹か数えていたのでしょうか。特別に多かったので数えてみたということなのでしょうか。どちらも正しいとは思えません。また、網が破れなかったというところは、この世的な常識でいうならば、必ず破れる状況だったと言っているのですが、この奇跡の意味は何でしょうか。

それは主イエス様によって建てられていた教会を差しているのです。網は教会の例えであります。ヨハネは、教会はあらゆる国々のすべての人々をその旨に抱くことが出来る程十分に広く、なかには人は排除されることもなければ、差別もない。主イエス様が示され、私達が目指すべき教会の姿がこの網に例えられているのです。153匹は、教会のなかには一人として神様に忘れられていない。人間的に見れば網の中の魚をすべて把握することは不可能であるけれども、神様の教会の中には皆神様に見られており、忘れられてはいないのだと言っているのです。神様の建てられた教会は、誰一人として不必要な人はなく、神様に一人残らず愛されているのです。これが私達教会に集う者が実践すべきことであり、目指すべき姿であります。主は、復活の後に私達に教会の姿を教えてくださいましたのです。本日の特禱にありました主のお姿は、私達が常に見失わずに求めていく姿でありました。

復活日から本日の復活節第3主日まで私たちは、復活の主イエスに出会った証言から学んできました。主は確かによみがえられた、この証言を改めて心に刻み、今週を共に過ごしていきましょう。